

西之島の火山活動解説資料（平成 27 年 12 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・情報センター

これまでの海上保安庁、海上自衛隊等の観測によると、2013 年 11 月以降、西之島では活発な噴火活動が確認されています。

西之島では、今後も新たに形成された陸地にある火口で噴火活動が継続すると考えられます。また、西之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾や、水面を高速で広がるベースサージ²⁾等の影響が概ね 2 km の範囲に及ぶおそれがありますので、西之島の中心から概ね 4 km 以内では噴火に警戒してください。

平成 27 年 2 月 24 日に火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報を切り替えました。その後、警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

< 22 日の状況 >（図 2 ～ 図 6）

22 日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、調査中（13 時 45 分～14 時 45 分）に第 7 火口及びその他の場所からの噴火は観測されませんでした。第 7 火口内壁及び火砕丘南側山麓からごく弱い白色の噴煙が認められました。新たな溶岩流は認められませんでした（図 3・図 4）。

熱計測の結果では、第 7 火口や溶岩流も含めて、西之島島内に顕著な高温域は認められず、前回の調査（11 月 17 日）と比較すると顕著な温度低下が認められました（図 5）。

西之島の北岸から東岸の海岸線に、薄い茶褐色の変色水が幅約 200～300m で分布していました（図 6）。

なお、西之島及び新たな陸地には、津波を発生させる恐れのある、海岸線に平行に走る断層やクラックは認められませんでした。

新たな陸地の大きさは、東西約 1,900m、南北約 1,920m となり、前回の調査時と比べてほぼ変化はありませんでした。新たな陸地の面積は、2.62km²（前回 2.63km²）でした。

- 1) 噴石について、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流れてふる小さな噴石」のことです。
- 2) 火山ガスと火山灰等の混合物が、水面や地表面を高速で横方向に広がり、地表の物を巻き込む現象で、人体や建物、船舶等に大きな被害を与える恐れがあり、とても危険です。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.htm>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 28 年 1 月分）は平成 28 年 2 月 8 日に発表する予定です。

この資料は、海上保安庁のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。



図1 伊豆・小笠原諸島の活火山分布及び西之島の位置図

西之島は、東京の南方約 1000km、父島から西に約 130km に位置します。

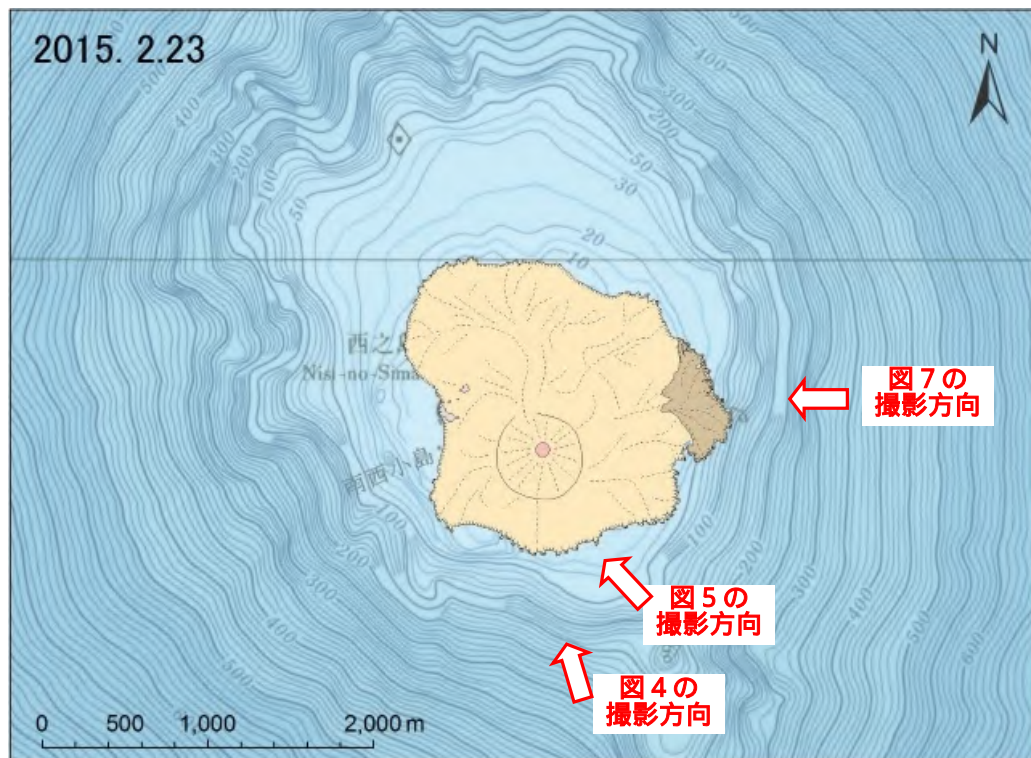


図2 西之島 主な撮影方向

西之島地形図（海上保安庁作成）に撮影方向を追記。



図3 西之島の状況（12月22日14時24分 南方向から撮影・海上保安庁提供）



図4 西之島 第7火口のごく弱い白色噴気
（12月22日14時28分 南方向から撮影・海上保安庁提供）

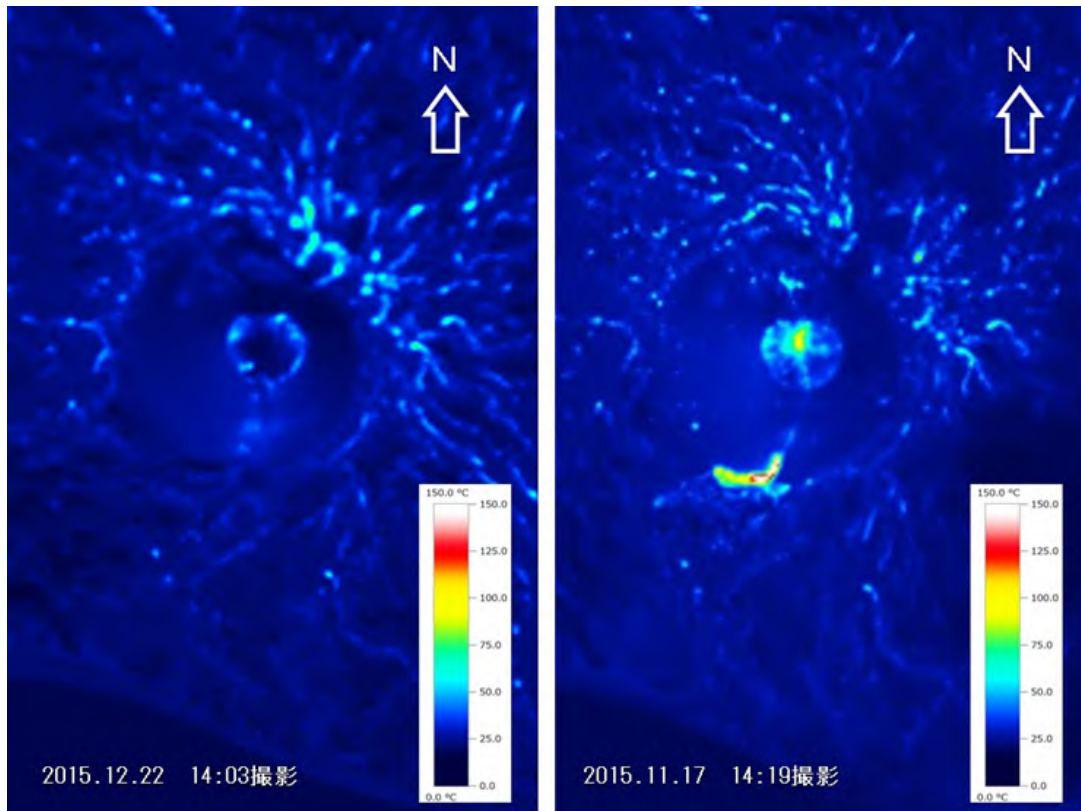


図5 西之島 熱計測映像（海上保安庁提供）

左 12月22日14時03分撮影・右11月17日14時19分撮影

第7火口や溶岩流も含めて、西之島島内に顕著な高温域は認められず、前回の調査（11月17日）と比較すると顕著な温度低下が認められました。



図6 西之島 変色水（12月22日14時20分 東方向から撮影・海上保安庁提供）

北岸から東岸の海岸線に薄い茶褐色の変色水域が海岸線付近に幅約200～300mで分布していました。